

2005 北東アジア経済会議イン新潟における諸提案

2005年6月8日・北東アジア経済会議組織委員会

【北東アジア環境ネットワーク】

- 北東アジアにおいては、地域全体としてのエネルギー需要の増大にともない温室効果ガスの排出量も増加傾向にあるところ、京都メカニズムを通じた"win-win game"が可能であるとの共通認識に立ち、具体的な関連プロジェクトを立ち上げていくための情報交換やキャパシティビルディングの充実化を急ぐべきである。
- 前述の努力を制度的に図るためにも、北東アジア経済会議組織委員会の下における環境常設分科会の設置を行う。

【北東アジアエネルギー共同体】

- 北東アジア域内のエネルギー安全保障を高める上では、供給国と需要国間の対話のみならず、地域内において需要国同士の連携が重要との発想を強めるべきである。

【北東アジア輸送回廊 / 産業・観光回廊】

- 北東アジア輸送回廊がより競争力のある真の国際輸送回廊となることを目指し、分科会メンバーが中心となって継続的に各国政府に働きかけを行い、北東アジア輸送回廊としての認知度を高める。
- 9本の北東アジア輸送回廊のうち、北東アジアすべての国が関係する図們江輸送回廊について、日本とを結ぶ海上ルートの開設に向けて、調査・研究を進め、分科会メンバーに各地域の政府関係者や専門家、民間企業などを加えて実務的検討を行うなど、実現に向けた努力を継続する。
- 物の流れに人の流れという視点を加え、北東アジア輸送回廊の活性化に向けた取り組みの一環として北東アジアの人的交流・国際観光の促進に向けて、積極的に情報交換の場を設け、専門家のネットワークを形成する。

【北東アジア経済開発ビジョン】

- 北東アジアにおける国境を超えた、二国間・多国間協力プロジェクトが円滑に行われるよう、各国の中央政府・地方政府が協力を後押しする措置をとる必要がある。そのために各国の発展戦略をふまえ、プロジェクトの実行を円滑化するために必要な措置を指摘し、それが実現した場合の果実を含めた「北東アジア経済開発・経済協力ビジョン」を策定する。
- 北東アジア環境ネットワーク、北東アジアエネルギー共同体、北東アジア輸送回廊 / 産業・観光回廊などのプロジェクトを研究・実行する際には、そのプロジェクトを行う上で障壁となる各国の制度や規制を明らかにし、それを解消するための方法論についても検討するべきである。